



# チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

## 第10回「連邦準備制度理事会（FRB）と 連邦公開市場委員会（FOMC）」

来週3月19日～20日に米国の中央銀行に当たる「連邦準備制度理事会（FRB）」が金融政策を決定する「連邦公開市場委員会（FOMC）」を開催します。今週は、「連邦準備制度理事会（FRB）」と「連邦公開市場委員会（FOMC）」、「政策金利の市場への影響」についてお伝えします。

### ～連邦準備制度理事会（FRB）とは～

FRBとは、米国の主要都市にある連邦準備銀行（各地域の中央銀行）を統括する政府機関であり、中央銀行に相当します。理事7人で構成され、理事の中から議長・副議長が4年の任期で任命されます。議長、副議長、理事は大統領が上院の助言と同意に基づいて任命します。こういった方々で構成されるFRBは、金融政策を通して、米国の雇用最大化、物価安定などを通して米国経済の活性化を目標としています。

### ～連邦公開市場委員会（FOMC）とは～

FOMCとは、FRBの金融政策手段の政策金利などを決定する会議です。通常は年間8回開催されます。この8回のうち、3月、6月、9月、12月のFOMCでは参加理事の経済・政策金利予測が発表されます。投資家はこの予測をみて将来の政策金利の動向を見通すため、来週のFOMCには注目が集まっています。

### ～政策金利と市場動向～

FRBの金利政策によって、米国の金融市場は大きく動いてきました。裏面の2つのグラフをご覧ください。上のグラフは、米国の政策金利（赤の折れ線グラフ、政策金利の上限数値を表示）と米国10年国債金利（黒の折れ線グラフ）の動きを示しています。下のグラフは、ニューヨーク・ダウ工業株指数の動きを示しています。期間は2020年1月から24年2月まで、それぞれ月末値です。

政策金利（赤）が引き上げられると10年国債金利（黒）も上昇しています。これがFRBの行う公開市場操作です。政策金利を動かすことで市中金利が動きます。市中金利の動きによって株式市場が上がったり、下がったりします。上下のグラフを見れば、①2021年12月から②2022年9月の期間では、政策金利上昇→10年国債金利上昇→NYダウ下落の動きとなっています。金利が上昇すると企業や個人の抱えている借金の利子が膨らみ、企業活動や個人消費が圧迫されます。結果として不景気となり企業業績が悪くなると予想されるため、株式を売却する投資家が多くなり、株価は値下がりがします。③2023年10月以降では、金利が下がり、景気が良くなることが予想され株価は値上がりしました。

このようにFRBの金融政策は株価動向に大きな影響を及ぼすため、来週のFOMCに注目が集まっています。注目点は2つです。一つは市場が期待している利下げがはじまるのか、もう一つは同時に発表されるFOMC参加理事の「経済・政策金利予測」です。

# 西村証券

第1の注目点については、パウエルFRB議長は3月6日の議会証言で「インフレリスクに対して強い関心を持ち続けており、利下げには慎重な姿勢で臨む。」と述べたことから、市場が期待していたFOMCでの利下げには言及しませんでした。この発言から今回は利下げしないと考えられます。第2の注目点、「経済・政策金利予測」についてですが、前回の理事予測では、今年末の政策金利を4.6%（4.5～4.75%）と予測していましたが、これは現在の水準5.25～5.50%から3回の利下げ（1回あたり0.25%として）を予測しています。金利先物市場では年初6回の利下げを予想していましたが、現在は6月から4回の利下げを予想しています。今回の理事の予測によっては、市場の予想が大きく変更される状況も考えられます。さて、結果はどうなるのでしょうか？次回以降のウィークリーレターで報告させていただきたいと思えます。

来週3月22日（金）13時より、当社本店ロビーにてお客様セミナー「株恋場」（かぶれんじょう）を開催します。今回のFOMCの結果と今後の市場見通しなどについて解説しますので、お時間のある方はどうぞお立ち寄りください。

お問合せ・お申込み

西村証券 本店 075-221-9390 9:00-17:00（平日）

